

# 中高生の情報教育に関する支援活動 —第82回全国大会を中心に—

## 編集にあたって

和田 勉 | 長野大学

本特集では、本会が初等中等情報教育（小中高等学校段階）に関して行ってきた支援啓蒙活動のうち、第82回全国大会（2020年3月）において行った以下の2つの企画の報告を掲載する。

- 第2回中高生情報学研究コンテスト
- (第1回) 初等中等教員研究発表セッション

石川県で予定していた「現地開催としての全国大会」は、新型コロナウイルス感染拡大により、中止を余儀なくされた。しかしこの大きな困難にあっても、いくつかのイベントやセッションは開催をあきらめず、新型コロナウイルスの手の届かないインターネット上の世界に場を移して挙行了した。

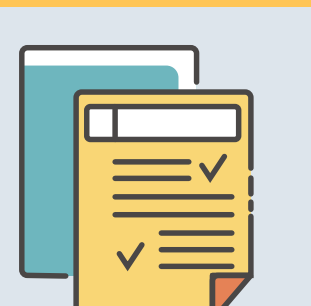
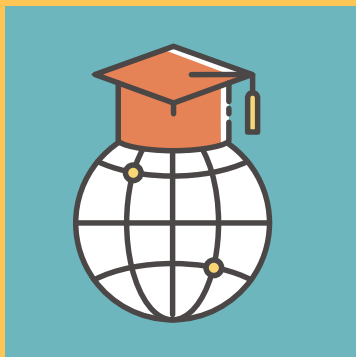
中高生情報学研究コンテストは、参加チームに事前に審査資料を提出してもらい、当初予定していた2019年3月にオンライン（一部対面）の審査会を開催することができた。講評および結果発表もYouTubeを通して行った。

初等中等教員研究発表セッションは、オンライン

開催を見送った。しかし代わりに、発表予定であった8名の初等中等教員の方々から資料提供を受け、座長予定だった2名の方に本特集内での報告としてまとめていただいた。これも、あきらめずに誌面に形を変えて開催したものと捉えたい。

本特集は、まず巻頭記事として、本会元会長の喜連川優先生（国立情報学研究所）に、会長でおられたときにジュニア会員制度を創設されたことをはじめ、元会長および国立情報学研究所のお立場、さらに国の情報教育政策を俯瞰する観点から御寄稿をいただいた。

ついで、中高生情報学研究コンテストに関して4件の記事を掲載している。萩谷昌己先生（東京大学）と中山泰一先生（電気通信大学）からは、同コンテストを万難を排して1年前に創設し、そして今回までの運営を中心になって進めてこられた御立場から、中高生情報学研究コンテストの概要・意義・効果について執筆していただいた。



高岡詠子先生（上智大学）には、今回の同コンテストの事前段階およびオンライン審査の具体的な進行の記録を御執筆いただいた。オンライン審査の結果決定した各賞受賞者の一覧もその中に記していただいた。

上位入賞した5チームには、受賞後の感想をそれぞれ短い文章で書いてもらった。これら5チームの審査資料である、ポスター（として貼り出すはずだったもの）およびその説明文と併せ、和田が記事としてまとめた。

また、参加した中高生のチームを指導するお立場として御貢献くださった中高などの先生方の中から、須藤祥代先生（千代田区立九段中等教育学校）にそのお立場から見た中高生情報学研究コンテストについて御執筆いただいた。

最後に、初等中等教員研究発表セッションの、現地開催の代替でもある記事を、中野由章先生（神戸市立科学技術高等学校）と小原格先生（東京都立町

田高等学校）にまとめていただいた。前述の、現地で発表するはずだった8件の初等中等教員の御発表内容がこの記事内にまとめられている。

なお執筆者にはなっていないが、本特集に使われている多くの写真およびYouTubeで公開した審査講評と受賞者発表ビデオの撮影は、竹中章勝先生（奈良女子大学）に御担当いただいた。

また久野靖先生（電気通信大学）には、共同エディタとして本小特集の編集をともに御担当いただいた。

現地開催として全国大会が中止となった中での苦闘を記録するとともに、今後、本会が初等中等教育段階に関してその教員や生徒と連携して積極的に支援啓蒙していく方針を示す一助としたい。

（2020年5月10日受付）